

【法要についてのお願い 表面より続き】

◇ 豊原でも、稚児行列があります！

二日目の稚児宿は、豊原の小林 明様方です。十二時五十分頃、豊原コミュニティセンターから夏柑共同選果場までを、ご縁のある稚児さんと共に稚児行列を組みます。

その後、野波瀬へ移動し、他の稚児さんと合流して、改めて行列を組みます。

野波瀬はもちろんのこと、豊原の稚児行列もぜひ見に来て下さい。

◇ たくさんのお稚児さん！ たくさんのお寺さん!!

今回の法要は、たくさんのお寺さんが来られます。大津東組内をはじめ、親戚、友人、そして楽人と、一日30人以上!! 日頃、こんなにたくさんのお寺さんを一度に見ることなんて、まずありません。かなり貴重な体験になりますよ。また、お稚児さんも、初日が50人、二日目が30人とたくさん申し込みがありました。にぎやかで、盛大な法要になりそうで楽しみです。稚児申し込みは、ぎりぎりまで大丈夫です。ぜひお問い合わせ下さい。

◆ いよいよ、近づきました。行き届かない点が、数多くあるやもしれません。皆様よろしくお願い致します。

「諦める」

あきら

若住職

いよいよ法要が近づいてまいりました。

大丈夫でしょうか。大きな勘違い、ミスがないか、不安で一杯。私は現在、パソコンの前で、かなり追い込まれています。いや、自分で自分を「追い込んでいる」と言った方が正しいかもしれません。原因はパソコンです。便利になったことで、やれることも増えました。あれもできる、これもできると安易に請け負ったり、可能性を広げすぎること、逆に自分を追い込むはめになってしまったのです。

でも、それは何も私だけに限らず、今の世の中全体に言えることなのかもしれない。これまでなら、「仕方がないか」と受け止めざるをえなかったことが、科学が進み可能性が広がったことで、諦めきれなくなってしまう。そのことが逆に、人間を振り回しています。身近な例で言えば、携帯電話ですね。普及したことで、逃げ場所がなくなり、休みの日も仕事から抜けきれない人たちがたくさん生み出しました。私たちが機械を使うのではなく、もしかしたら私たちが機械に使われているのかも。医学もそうですね。進歩したことで、死は遠のきました。生への可能性が大きくなることで、みんな幸せかという、どうでしょう。「死」を受け止めることができずに、「生きる」ことさえ見えなくなった、そんな時代のような気がします。

アメリカの神学者ラインホルド・ニーバーは、「神よ、変えられないものを受け入れる平静と、変えられるものを変える勇気と、両者を見分ける知恵を与えたまえ」と言っています。人間の限界を知ること、「諦める」ことの大切さを見失うことは、人間自身を見失うことだと教えられる言葉です。仏教でも、「諦め」とは、実は「あきらかに見る」ということなのだと言われています。

自分の姿を、あきらかに見て、受け止めていく。そうあろうと、常に仏様に相談しながら生きていく。そうしないから、自分自身を見失ってしまうのでしょうか。今だからこそ、痛切に感じている次第です。

とにかくあと少し。悪い意味で「諦め」て、投げ出すようなことだけはしないように。

第30回三隅地区親鸞聖人聖蹟巡拝団

ご本山参りと井波の瑞泉寺・五箇山の旅 参拝団募集

2009(平成21)年6月22日(月)～24日(水) 二泊三日

参加費 83,000円

先日、新聞折込みでご案内しましたとおり、二年に一度のご本山参りの募集です。

今年は、彫り物で有名であり、北陸真宗の中心寺院である井波の瑞泉寺や、世界遺産に登録された合掌造りの一つでもあり、妙好人赤尾の道宗ゆかりの五箇山へ参ります。

どうぞ、ご参加下さい。申し込みは、極楽寺まで。

締め切りは五月十五日までですが、継職法要中(五月四日、五日)の申し込みはご遠慮下さい。